

基盤作りの2014, 飛躍の2015

運動機能外科学 教授
脊椎関節機能再建外科学 教授(兼任)

西 良 浩 一
(昭和63年入会)

昨年11月1日に着任し、早1年。魅力ある医局作りを合言葉に、松浦哲也准教授を始めとする教室員共々、一年間走りました。少々ハードワークかな？と思う時期もありましたが、誰一人弱音も吐かずに全速力で走ってる姿はとても頼もしく思いました。本年初頭、准教授2名、講師4名の同時昇進を7月1日に行うことを正式に決定しました。対象となる6名を集め、今後の整形外科教室の未来を決める大切な人事であり、そのためには、英文論文が必要であることを伝えました。研修医を含め全員で論文を書き、気がつけば就任後半年で50本の英文論文がsubmitされました。講師以上であれば英文論文50本以上持つことが常識であるとの認識が全員の意識に芽生えとても心強い。

現在の教室の勢いには、東野恒作先生が存在が欠かせない。縁の下の力持ちという言葉が当てはまる。医局の若い先生からは「師匠」と呼ばれて慕われている。東野恒作先生は、Clinical Anatomical Laboratory (CAL) 設立に尽力した整形外科医です。4月に整形外科講師昇進が決まっていた時、機能解剖学教室よりCALのために解剖学の助教になりCALを支えてほしいとの依頼がありました。東野恒作先生は、整形外科講師という昇進が決まってるのにも関わらず、その席を酒井紀典先生に譲り、自身は、「とにかくCALを盛り上げたい」との一心で機能解剖学教室に異動しました。以後の活躍は皆様ご存知のとおりで、現在、CAL教育センターの副センター長として大学を牽引して下さっている。

10月より、ネパールのカトマンズ大学整形外科よりDr. Jha先生が当教室に留

学に来ております。一年間の予定です。国際化が始まりました。脊椎内視鏡・関節鏡手術の研鑽に来ております。すでに英文のcase reportを2本書き上げました。英会話および英文論文執筆という面から教室員を刺激してくださっている。2015年、年明け早々の1月には、後東講師がスイスに旅立ちます。ベルン大学で3ヶ月、股関節についてさらに研鑽します。また、4月には高田講師がセントルイス、ワシントン大学で3ヶ月間、側彎症の研修へ、殿谷助教がニューヨークのHospital for Special Surgeryへ2年間、関節軟骨の基礎研究留学が決まっています。骨軟部腫瘍担当の西庄助教も留学準備にかかり、候補地を探しています。徳島大学整形外科は今後更なる国際化に向け、始動しました。

同門会との絆も強くなりました。私が最も尊敬する邊見達彦先生が同門会長に、さらに私が研修医の頃より指導下さっている三上浩先生、岡田祐司先生が副会長に就任されました。とても心強く感じています。地方では若手医師が残りにくいという逆風のある中、本年度は5名の若者が入局し整形外科医としての一步を踏み出しました。来年は3名が予定しており、さらに再来年はすでに数名が手を上げてくれています。教室・同門が協力し、徳島大学がさらなる発展に向かっていることを確信しております。

2014年、教室員一丸となりパワーを蓄積しました。2015年に向け、飛躍・飛翔の準備は整いました。同門会の皆様、今後の教室の発展、ご期待下さい。